

周辺案内



明治維新の魁となった生野義拳の碑



洋館風の旧生野警察署(現一区公民館)



鉱石輸送軌道跡、市川沿いのトロロコ道



交流の場、生野まちづくり工房「井筒屋」



鉱山跡を観光に一般開放した史跡生野銀山



【車】姫路から約1時間、京阪神から約2時間、福知山から約1時間(播但連絡道路経由)

【鉄道】姫路から約1時間、京阪神から約2時間15分、福知山から約1時間15分(JR播但線生野駅下車、徒歩10分)

朝来市 生野書院

〒679-3301 兵庫県朝来市生野町口銀谷 356-1
TEL&FAX 079-679-4336

◎入館無料 ◎開館時間／9：30～16：30
◎休館日／月曜日(祝日の場合は翌日)
12月28日～1月4日

歴史年表

時代	年号	西暦	出来事
奈良	和銅6年	713	生野は播磨の国「埴岡の里」に属し、応神天皇によって生野と名付けられる。(播磨国風土記)
平安	大同2年	807	生野から銀が発見されたという説がある。
	応永13年	1427	山名時熙が生野城(山城)を築く。
室町	天文11年	1542	銀鉱を初めて掘り出す。 銀山日記に「山名祐豊が銀山統治のため生野城(平城)を築く」という記述がある。
安土桃山	永禄12年	1569	織田信長の命を受け、羽柴秀吉(豊臣秀吉)但馬の山名氏を攻め、生野銀山が信長の支配となる。
	天正10年	1582	本能寺の変があり、生野銀山は豊臣秀吉の支配となる。
	慶長5年	1600	関ヶ原の戦いがあり、生野銀山は徳川幕府の支配となる。
江戸	元文3年	1738	元文一揆(朝来郡の農民による強訴)が起きる。
	天保12年	1841	代官所内に学問所(尊性堂、後の麗澤館)が開かれる。
	元久3年	1863	「生野の変(生野義拳)」が起こる。
明治	慶応4年(明治元年)	1868	明治新政府により代官所は廃止され、但馬取締役府中裁判所が設置される。 生野銀山は官営生野銀山となる。
	明治2年	1869	生野県が設置され、旧代官所が県庁となる。
	明治4年	1871	生野鉱山焼打事件のため、鉱山機械所が灰燼に帰する。
	明治5年	1872	フランス人の住宅「異人館」が建設される。
	明治8年	1875	生野鉱山新工場を再建し、工部卿伊藤博文(後の初代総理大臣)臨席のもと盛大な落成式を挙げる。 鷹ノ巣ダム及び水路(3,500m)が完成した。 生野鉱山から飾磨港間の馬車道が完成。
	明治9年	1876	生野～神子畑間に馬車道完成。
	明治18年	1885	町村制実施に伴い、近隣の村落を合併し、新しく生野町が発足する。
	明治22年	1889	生野鉱山は皇室財産に移され、宮内省御料局の所管となる。 播但鉄道生野～飾磨港間開通。
	明治28年	1895	生野鉱山が三菱合資会社の経営となる。
	明治29年	1896	生野町に69,000円の御下賜金が下賜された。
大正	明治35年	1902	町民税の軽減を目的に「基本財産蓄積条例」が制定された。
	大正2年	1913	町立商工学校、町立実科女学校開校。 町内に電灯がつく。
	大正9年	1920	本部～支庫間の市川右岸に電車専用道(トロロコ道)がつくられる。
昭和	昭和32年	1957	神崎郡長谷村の栃原と川尻が生野町に編入合併。
	昭和47年	1972	上生野に県営生野ダム完成。
	昭和48年	1973	生野鉱山が閉山し、生野製作所となる。
	昭和49年	1974	黒川に関西電力揚水ダム完成。 銀山公園「史跡生野銀山」がオープンする。 生野工業団地が完成し、企業誘致を進める。
平成	平成元年	1989	町制施行百周年を迎える。
	平成17年	2005	生野町、和田山町、山東町、朝来町の4町が合併し、新しく「朝来市」が誕生。
	平成19年	2007	生野銀山開坑1200年祭開催。
	平成25年	2013	生野義拳150年。 生野義拳150年記念特別展。
	平成26年	2014	「生野鉱山及び鉱山町の重要な文化的景観」選定。
	平成29年	2017	「播但貴く、銀の馬車道 鉱石の道」日本遺産認定。



生野に残る貴重な資料を展示

生野書院は、材木商の邸宅(大正期)を改修、入口には明治初期に鉱山長を務めた朝倉盛明氏の官舎正門を移設した、旧家の面影を残す資料館です。生野銀山が古くから栄えたことを伝える書画や資料を展示。陶芸室、和室、茶室なども完備し、趣味想いの場所としても幅広くご利用いただけます。



展示室

生野義拳に関する高札や掛け軸など、貴重な資料の展示。



蔵展示室

企画展・特別展を開催します。



茶室・和室

茶室・和室で心静かに落ち着けるひとときをどうぞ。



陶芸室



生野史料館

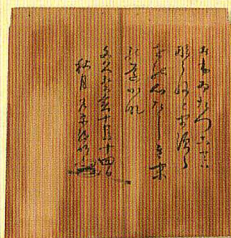
生野書院

展示・所蔵資料の紹介



奉献額 (レプリカ)

多々良木村の高札を利用して書いたもの。生野代官所を無血占領したものの、その後の方針が決まらず、業を煮やした南八郎（河上弥一）が長州藩来島又兵衛の歌を借り、山口村で怒りに任せて書いたもの。実物は山口護国神社蔵



戸原卯橋の辞世の句 (レプリカ)

妙見堂の陣を撤収し下山するとき、妙見堂東壁の板二枚に書き残した句。実物は山口護国神社蔵

川上猪太郎の掛軸

生野義拳当時の代官。備中倉敷へ代検見のため出張中に義拳が起こった。



幽
静
自
適

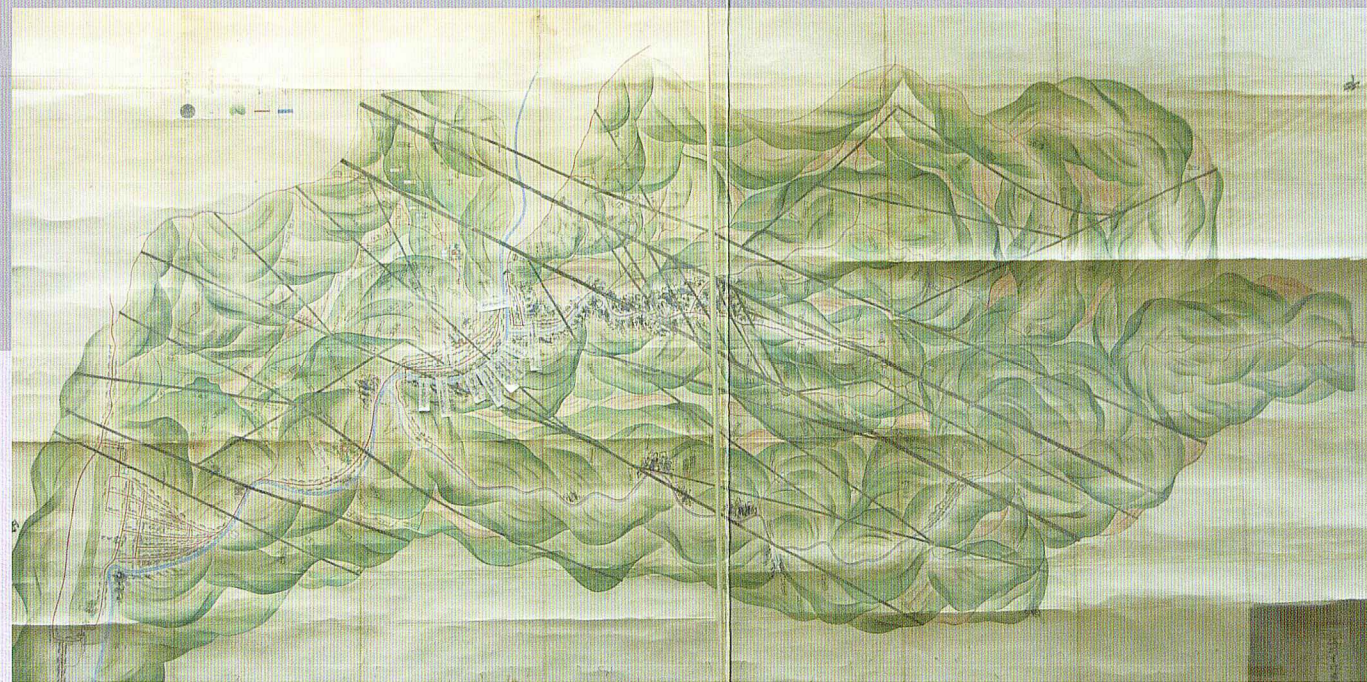
北垣晋太郎 (後の国道) 佩用の刀 無銘 伝保昌

義拳当時国道が佩用していた刀と伝えられている。田辺朔朗の曾孫に当たる田辺康雄氏（東京在住）より朝来市に寄託されたもの。田辺朔朗は琵琶湖疏水を設計・監督。疏水完成後、国道の長女静子と結婚した。



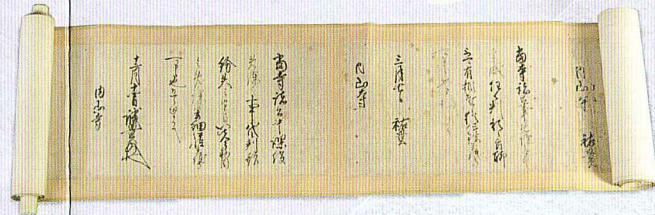
平野國臣愛用の朱笛

平野國臣が愛用した笛で、能見敬次郎に与えたとされている



銀山方留書

生野銀山の経営に関する要項を記載した文書。時代不詳



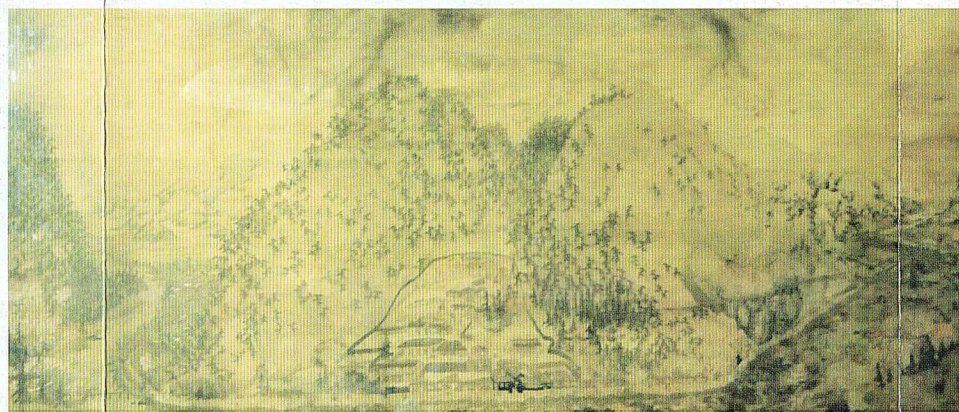
但馬地図

天保14年(1843)作。江戸時代後期の但馬の村々の里程・収穫高・領主名・式内社が記されている。今は無い郡・郷里である気多(けた)・美含(みぐみ)・二方(ふたかた)等の名が記載されており、往時の但馬を知るうえで貴重な資料である。



明治初年の猪野々町地図

明治4年10月の生野鉱山焼打ち前の機械所や、大送水路・道両側の住宅等が描かれている。フランス人技師の設計した明治初期の木造工場が立ち始めた頃の様子が伺える資料である。



但州生野銀山惣絵図

生野銀山の鉾筋を描いたもの。北西から南東へ鉾筋が通っている。画面左下に代官所(陣屋)が描かれている。江戸末期のもの。

天秤

製錬された銀は掛屋に持参、掛屋は目方を計り(掛改という)、運上蔵へ納入する。掛改に用いる天秤



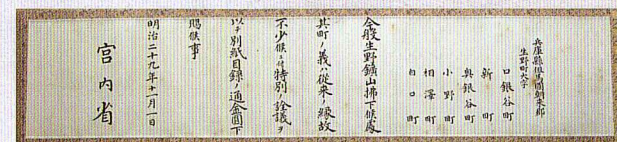
生野県焼判印鑑

明治2年(1869)8月より明治4年(1871)年11月2日まで生野県が設置された。県庁は日生野代官所に置いた。生野県は、但馬(北部の一部を除く)・播磨・美作3ヶ国の11郡を管轄した。



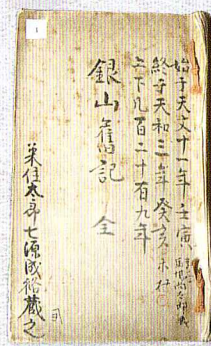
内山寺安堵状

山名氏三代(誠豊・祐豊・氏政)が帰依した内山寺の安堵を保障した書状。



御下賜金達書

明治29年(1897)皇室財産であった生野鉱山が、三菱合資会社に払い下げられた際に、生野町に与えられた恩賜金の通達書



銀山日記

天文11年(1542)から天和3年(1683)の141年間の生野銀山の様相を、生野代官所地役人寺田十郎左衛門が記し、享和3年(1803)に藤岡同好が写したもの。生野の歴史を知るうえで、貴重な記録である。